

地域交通DX推進プロジェクト RFI(Request for Information)情報提供依頼#1とは？

本RFI(情報提供依頼)は、地域交通DX推進プロジェクトの価値を高めていくための産学官民連携施策の一つです。

- 国土交通省モビリティサービス推進課では、今年度から、「交通空白」解消など地域交通の「リ・デザイン」の全面展開を進めるため、「サービス」、「データ」、「マネジメント」、「ビジネスプロセス」の4つの観点からデジタル活用を一体的に推進する地域交通DXの取組を新たにスタートしています。
- 地域交通の課題を解決するデジタル技術活用のベスト・プラクティス創出やその成果の標準化、ナレッジのオープン化を推進するためには、様々なプレイヤーと議論し連携を深めることが重要です。
- そこで、地域交通DX推進プロジェクトでは、RFI(情報提供依頼)として、今後のプロジェクト形成に向けたアイデアや提案を募集します。
- RFI#1では、テーマに応じた基本的なアイディエーションを行うことを狙った「提案募集型」RFIを行います。RFI#2ではこれを基にして作成したプロジェクト原案に対する技術提案を募集する「意見募集型」RFIを行っていく予定です。ぜひご参加ください。



スケジュール

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
		RFI #1 6/6(金)~7/4(金) ※2026年度に向けた企画提案の情報提供依頼		ヒアリング	RFI #2	ヒアリング		公示手続等 ※企画競争提案に関する手続き等			

※今後変更される可能性があります。

Concept of Mobility Service DX Initiative

Mobility As a Commons

地域交通DX推進プロジェクトでは、
産学官民連携の拡大に向け、以下のテーマでプロジェクトの
情報提供依頼(RFI: Request for Information)を実施します。



サービス品質
の向上

他分野連携や移動需要の
惹起など、地域交通の課題
を解決する新たなモビリティ
サービスの開発プロジェクト等



データ取得環境
の構築

バラバラに存在する地域交通
に関するデータを標準的、総
合的、横断的に取得可能と
するプロジェクト等



データに基づく
地域交通政策

データ分析や路線再編を円
滑化する技術開発など、デー
タに基づく地域交通政策を
推進するプロジェクト等



事業生産性の
向上

業務モデルの標準化やシステ
ムインターフェースの共通化な
ど、地域交通の生産性を向
上させるプロジェクト

持続可能な地域交通を実現する地域交通DX

「交通空白」解消など地域交通の「リ・デザイン」の
全面展開を進めるため、

「サービス」、

「データ」、

「マネジメント」、

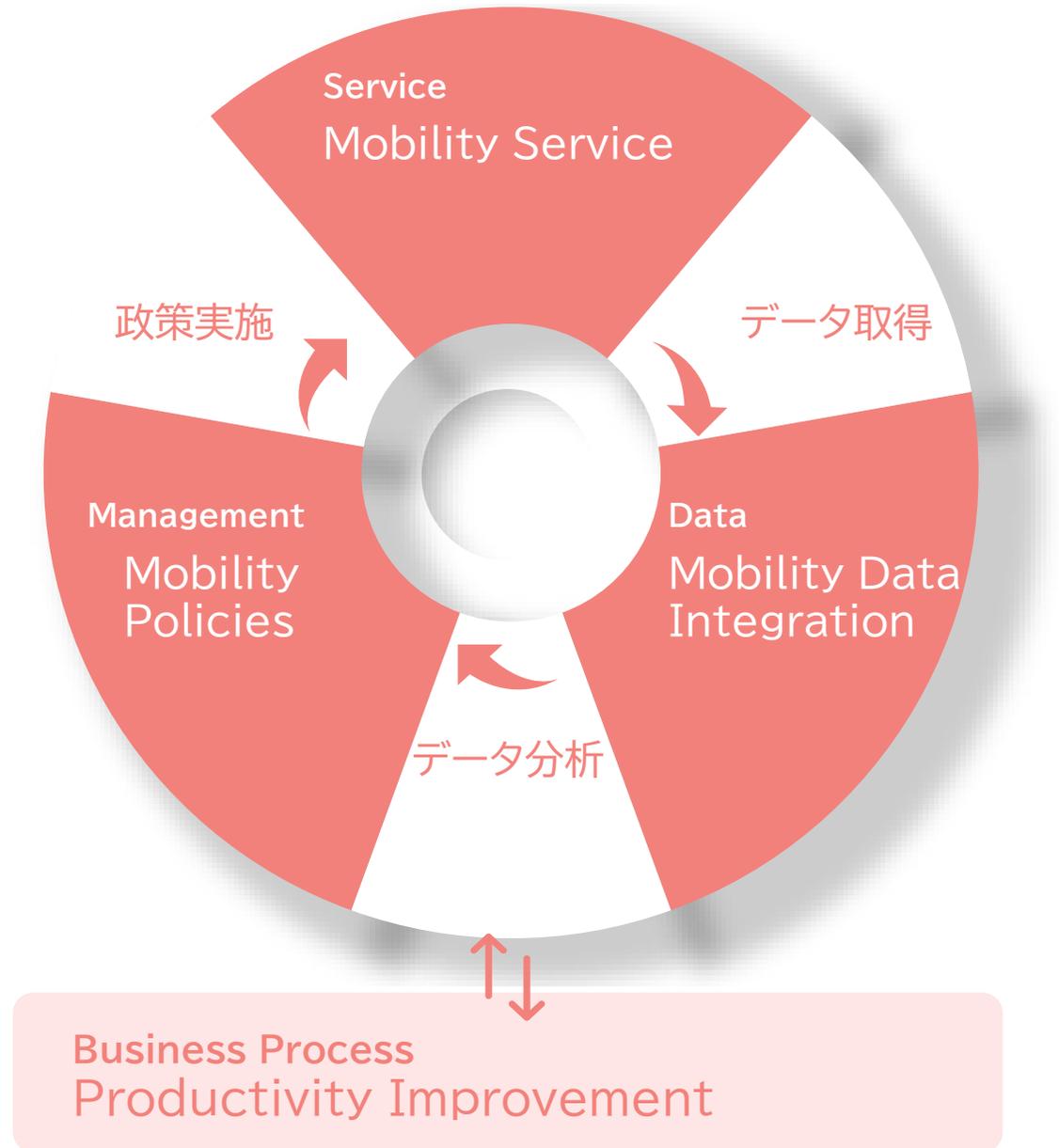
「ビジネスプロセス」

の4つの観点からデジタル活用を一体的に推進し、

地域交通の持続可能性、利便性、生産性向上を実現する

地域交通DX推進プロジェクトを

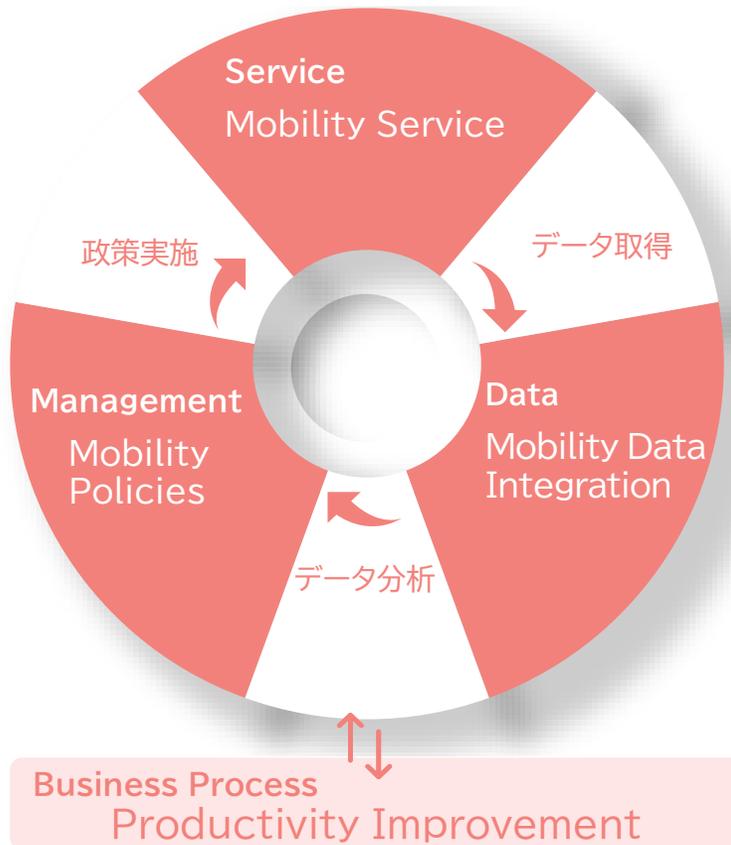
新たにスタートします。



地域交通DX - 目指す姿

MaaSアプリや配車アプリの開発、デジタル・チケットング(交通キャッシュレス)の導入、データ活用の推進など、地域交通に関するデジタル施策はこれまでそれぞれ進められてきていました。人口減少・高齢化などにより地域交通の持続可能性が懸念されるなか、交通サービスの利便性向上や事業生産性の向上、地域におけるデータ活用の推進などの観点から、これらのデジタル施策の連携を一層深める必要があります。

地域交通におけるデジタル技術の活用を地域交通の持続可能性、利便性、生産性向上という価値にコミットするエコシステムとして再構築するため、「サービス」「データ」「マネジメント」「ビジネスプロセス」の4つの観点からデジタル活用を一体的に進める地域交通DXを推進します。



地域交通DXの目指す姿

 サービス品質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 他分野連携や移動需要の惹起など、地域交通の課題を解決するモビリティサービスの品質向上を推進 <ul style="list-style-type: none"> マルチモーダルかつシームレスな移動体験を支えるシステム連携仕様の標準化 移動需要惹起に資する他分野連携サービスの開発を推進 洗練されたUI/UXによる高品質なサービスを実現
 データ取得環境の構築	<ul style="list-style-type: none"> バラバラに存在する地域交通に関するデータを標準的、総合的、横断的に取得可能とする環境を整備 <ul style="list-style-type: none"> 移動に関する解像度の高いデータを取得・連携可能な標準化・仕組みの構築 自治体職員がデータを自ら扱えるようなケイパビリティの向上
 データに基づく地域交通政策	<ul style="list-style-type: none"> データ分析技術の開発や路線再編を円滑化する仕組み作りなど、データに基づく地域交通政策を推進 <ul style="list-style-type: none"> 交通シミュレーション等の分析ツールの技術開発及び指標開発 行動変容施策や路線再編のための技術開発 地域主導による地域公共交通計画のアップデート等の実践知の創出
 事業生産性の向上	<ul style="list-style-type: none"> 業務モデルの標準化やシステムインターフェースの共通化など、地域交通の生産性向上を推進 <ul style="list-style-type: none"> 業務モデルの標準化 業務システムのインターフェース標準化 行政手続きのデジタル化推進

地域交通DXの方法論

地域交通の課題解消

①デジタル活用の先進事例創出

ベスト・プラクティス開発支援
(サービスの高度化やデータ活用等のベストプラクティスを開発)

②デジタル活用の環境構築

協調領域の定義と標準化
(協調領域における業務、システム、データ等の仕様の標準化)

③デジタル活用の実装支援

オープンソース化
(ベスト・プラクティスのオープンソース化による横展開)

社会実装支援
(ベスト・プラクティスや標準仕様の導入等の社会実装を支援)

オープンソース戦略

OSS、データ、仕様など、生産した成果(ナレッジ)を幅広くオープンとし、誰もが利用可能とする

協調領域の定義

交通×デジタルの領域において、汎用的、共通の、標準的に官民が成果を共有すべき領域を定義する

国のイニシアティブによる標準化・ベストプラ創出

国がイニシアティブを取り、業界や技術ホルダ、学術と連携することで、地域交通の課題解決に資するベストプラクティスを創出する。

社会実装支援

「日本版MaaS推進・支援事業」等の支援ツールを活用し、ベスト・プラクティスや標準仕様の導入等の社会実装を支援。

協調領域の標準化による投資分散を抑制することで、競争領域への各社投資を促す。交通サービスの改善や新たなソリューション提供により、地域交通の持続可能性、利便性、生産性を向上させる。

【参考】FY2025プロジェクト紹介

[報道発表資料:地域交通DX:MaaS2.0のプロジェクトを新たにスタートします!](#)

No	カテゴリ	プロジェクト名	選定受託事業者
1	サービス	MaaSのサービス品質向上プロジェクト	東日本旅客鉄道(株)、(株)ヴァル研究所、(株)ケー・シー・エス
2		新幹線×タクシーの予約連携プロジェクト	東日本旅客鉄道(株)、(株)電脳交通、(株)ケー・シー・エス
3		ヘルスケアMaaS社会実装プロジェクト	富士通(株)
4		地域施設送迎のリソースシェア推進プロジェクト	(一社)ソーシャルアクション機構、ソーシャルムーバー(株)、EXA INNOVATION STUDIO(株)、(株)Cuon、(株)岡山トヨタシステムサービス
5		カーシェアリングによる地域の法人車両活用実証プロジェクト	(株)TRILL.
6		リアルタイム相乗りタクシーマッチングシステム開発プロジェクト	(株)NearMe
7	データ	一件明細等のモビリティデータ標準化	フューチャーアーキテクト(株)
8		モビリティ・データ標準化プロジェクト	フューチャーアーキテクト(株)
9		GTFS-JPのアップデート	TIS(株)
10		GTFS-Flex及びGTFS-Ondemandの技術実証プロジェクト	TIS(株)
11		コミュニティバスキット開発プロジェクト	(株)Will Smart
12	マネジメント	公共交通計画策定支援ツール開発プロジェクト	パシフィックコンサルタンツ(株)
13		地域交通の総合シミュレーションシステムの技術実証プロジェクト	富士通(株)
14		SIMレスバス停開発プロジェクト	(株)小田原機器、(株)MaaS Tech Japan、長崎自動車(株)
15	ビジネスプロセス	タクシー配車業務・システムの共通化プロジェクト	(株)電脳交通
16		デマンドバスシステム標準化プロジェクト	MONET Technologies(株)
17		二次元バーコードチケットAPI標準化プロジェクト	トヨタファイナンシャルサービス(株)、日本信号(株)
18		モビリティシェアリングシステム標準化プロジェクト	パシフィックコンサルタンツ(株)、OpenStreet(株)
19		バス業務標準化プロジェクト	フューチャーアーキテクト(株)、(株)みちのりホールディングス

※No8、9、10、11、12、13については国土交通省情報政策本部が進める「Project LINKS」と連携して実施。

※No2、3、4、6、15、19については「交通空白」解消パイロットプロジェクトとして位置付け。

FY2025 RFI#1への応募方法

1) 応募書類

「**応募様式**」に**必要事項を記入**の上、2) 提出方法に記載の方法にて提出すること。(補足説明資料の添付も可)。

また、情報提供の内容毎にファイルを分けて提出すること。

(複数のテーマの情報提供や1つのテーマで複数の情報提供をする場合は、シートを増やさず、ファイルを分けて提出)。

2) 提出方法

下記に示すメールアドレスまで**電子メールで送付**すること。

なお、応募書類全体の容量が10MBを超えないようにすること。

その際、件名は「**R8年度RFI応募(所属団体名)**」と明記すること。

国土交通省総合政策局モビリティサービス推進課 担当: 内山、瀧岡、増野、水田、志賀、松本

TEL 03-5253-8980(直通)

電子メール hqt-mobilityservice1002@gxb.mlit.go.jp

※本RFIに関するご質問及び回答内容については、質問者が特定できない形で整理の上、「FAQ」としてウェブサイトに掲載する。

3) 募集期間

2025年6月6日(金)～7月4日(金)

4) 説明会の開催

開催日時: 令和7年6月13日(金)16:00～16:30

開催場所: オンライン形式(Microsoft Teamsを想定)

参加申込: 説明会の参加を希望する場合、令和7年6月11日(水)16時までに、問い合わせ先に以下の要領でご連絡ください。

- ① 件名は「【参加希望】地域交通DX RFIの説明会について」としてください。
- ② 必要情報: メール本文に、企業・団体名、所属部署、役職名、氏名、TEL、Emailを記載してください。